

黄金の桜

一葉

私は一度「これは奇跡だ」と思ったことがある。ささやかなものだが、私にとってはこの上なく衝撃的な体験であった。

それは、今からちょうど20年前の31歳で、人生のピンチを迎え強いストレス下にあったとき、この上なく美しい山桜を見たことだった。

夜に降っていた雨が上がり、水を含んだ空気が漂っている午前5時頃、早朝覚醒した私はふと思いついて近所の公園にある山桜を見に行った。しばらく眺めていると、朝日が満開の山桜の花に差し込んで、次の刹那、山桜は黄金色に照り輝き始めたのである。その凄まじい美しさに私は圧倒され、奇跡が起こったと思った。驚いて周囲を見回したが、静かな住宅街で早朝のため人影もなく、ご老人が一人自宅の前を掃除している平凡な朝があるだけだった。それが目の前の桜には全然そぐわなかった。

自然は美しい、というようなレベルの状態ではない。輝く山桜は、日常を凌駕して突き抜け、聖的でさえあった。どうして、どうして誰もいないのか？、と私は思った。こんなに凄いことが起こっているのに、どうして私しかいないのか？

そんな私の動揺をよそに、輝く山桜は無言で絶対的な美をそこに顕現させていた。もし私が宗教家だったら、それは「神の啓示」だと思っただろう。「私は、この桜を見るために生まれてきたのかもしれない」とさえ思った。それほど的美であった。

その後何がどう変わったということもない。相変わらずピンチの私がいるだけだった。それでも、人生のピンチを凌いできた今でも、黄金色に輝く山桜が私の深いところにひっそりと秘められている。